

第1学年3組 道徳科学習指導案

令和3年2月9日(火)

授業者 教諭 新井 亮佑

場所 1年3組 教室

1 **主題名** 色々なことを乗り越え、生き抜くことで受け継がれてきた命 内容項目[D 生命の尊さ]

2 **ねらい** 主人公智子の心の変容を話し合うことを通して、自分の命は親やたくさんの人たちが色々なことを乗り越え、生き抜くことで受け継がれてきた命であることに気づき、かけがえのない生命を精一杯生き抜いていこうとする態度を育てる。

教材名 「命のタスキ」 (出典:「彩の国の道徳(中学校)『自分を見つめて』埼玉県教育委員会)

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

本時は、内容項目D「生命の尊さについて、その連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重すること」に関することである。

いじめや自殺等、命の大切さへの指導が教育において喫緊の課題となっている現在、発達の段階を踏まえ、継続的に命の大切さについて考える時間を設ける必要がある。命はなぜ大切かと考えると、その答えは無数に考えられる。「自らの生命は自分一人だけのものではないから」、「今の自分が存在することが奇跡だから」、「今ある生命をより一層輝かせることの喜びと使命があるから」など、様々に考えることができる。本教材では、「色々なことを乗り越え、生き抜くことで受け継がれてきた命」の尊さを学ぶことをねらいとして授業を組み立て、生徒と一緒に命の大切さについて考えていく。

自分の命や他人の命を軽視する傾向があったり、命の大切さについて考えることが少なかったりする生徒に命の尊さを学ばせるために、本授業では、受け継がれてきた命の連続性と関わらせながら授業を展開していく。人間は過去から受け継がれてきた生命の流れの中を生きている。その生命一つ一つに祖父母や父母が在ること、そして自分は、そのかけがえのない子供として深い愛情をもって育てられていることに気付くとともに、生命は色々なことを乗り越え、生き抜くことでずっと受け継がれてきたことを深く考えることによって、自らの生命の大切さを深く自覚し、かけがえのない生命を精一杯生き抜いていこうとする態度を育てる。

(2) 生徒のこれまでの学習状況及び実態について

道徳科では、これまでに「父へのメッセージ」という教材を用いて、命は有限でありその中で家族の一員としてどのように過ごしたらよいのかを考え、命を輝かして生きようとする態度を養う指導を行った。また、理科では、「植物の生活と種類」の学習を行う中で、花に共通するつくりを観察して、様々な植物とふれ合う中で、命あるものの大切さを実感させてきた。

本学級の生徒は、比較的健康的に毎日を過ごせる場合が多いため、自己の生命に対する有り難みを感じている生徒は決して多いとは言えない。身近な人の死に接したり、人間の生命の有限さやかけがえのなさに心を揺り動かされたりする経験をすることも少なくなっている。アンケートの結果では、「命はかけがえのない大切なものだと思うか?」という問いに対して85%の生徒が「そう思う」、15%の生徒が

「どちらかといえばそう思う」と回答しており、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」と回答した生徒はいなかった。しかし、「命はなぜ大切か？」という問いに対して、ほとんどの生徒が「一つしかないものだから」と回答している。ここから、どの生徒も「命は大切」という思いはもっているが、それはなぜなのか、命を大切にするとはどういうことなのかを具体的にイメージしたり、捉えたりすることが難しいようである。そこで本授業では、命が大切な理由の中で、命の連続性に焦点を当て、命は色々なことを乗り越え、生き抜くことで受け継がれてきたものであることに気付かせ、かけがえのない生命を精一杯生き抜いていこうとする態度を育てていく。

(3) 教材の特質や活用方法について

本教材は、母親が自分を思う愛情をわずらわしく思い、反抗的な言葉を投げかけてしまう主人公が、学校で生命誕生の学習に感動を覚え、母親に心を開く。そして、母親から自分の誕生の様子とともに母親の生い立ちの話も聞く中で、生命の誕生の真実と奇跡を身近なものとして受け止めるという内容である。

事前のアンケート調査によると、大多数の生徒が命は大切であると感じると答えていた。しかし、命はなぜ大切かと問われると、「一つしかないものだから」と答える生徒が大半であり、「受け継がれてきた命だから」という連続性を答える生徒はごく小数であった。

本教材は、主人公が母親の話聞いて涙を流す場面に、自分一人の命ではなく、たくさんの命のおかげで今の自分の今の命が活かされていることに、生徒一人ひとりが自分のこととして捉えることのできる教材であると考えられる。本教材の活用にあたっては、主人公への自我関与を中心に授業を展開しながらも、母親の視点に立って考えることを通して、命の重みをより実感させながら本時のねらいに迫っていく。このような教材の特質と本学級の生徒の実体を受け、主に次のことを話し合うことにする。

①「好きであなたの娘に産まれてきたわけじゃない」と言った智子の気持ち

口うるさい親に思わず反抗する主人公に共感させ、人間理解を深めるための発問である。また、自分一人でここまで大きくなった、自分の命は自分だけのものと簡単に生まれてきたような言い方をしていることにも気付かせる。

②命の重さと同じ重さの人形を抱いて、両腕がものすごく緊張したときの主人公の気持ち

小さな命だが、ずっしりとした重みを感じた主人公の気持ちに共感して考え、自分たちの命は、命がけで産んでもらった大切な命であることに気付かせるための発問である。「あなた方も命がけで産んでもらい、生まれてきたのです」という助産師の言葉を板書に示し、視覚的に捉えられるようにすることで、その言葉をかけられた主人公の気持ちに共感しやすいようにする。

③本当の事実を知ったときのお母さんの気持ち

生徒が、自分の命もまた、自分たちの親や先祖が大変なことを乗り越えながら生き抜いてつないでくれた命であることを考えながら、発問④や話し合い後の自己を見つめる活動に臨めるようにするための発問である。智子の母が、自分は本当の母親を知らないことを知ったとき、怒りや悲しみ、絶望などが芽生えたことを考えることを通して、それだけのことを乗り越えて、智子の命をつないでくれていることを考えられるようにする。

④お母さんの話を聞いたときの主人公の気持ち

お母さんが大変なことを乗り越えながら生き抜いてつないでくれた命であることを知り、自分の命について考える主人公の気持ちに重ねて、生徒が自分の命を見つめられるようにするための発問であ

る。「お母さんに対してどう思ったか」「自分の命に対してどんなことを考えたか」という二本の柱で整理して考えさせることで、つらいことも乗り越え生き抜いて自分を生み、育ててくれたお母さんに対する感謝と後悔の思い、たくさんの人が生き抜いて受け継いでくれた自分の命を大切にしたいという思いについて考えを深められるようにする。

4 学習指導過程

	学習活動と主な発問	予想される生徒の反応	・指導上の留意点 ☆評価の観点
導入	1 事前アンケート結果を共有する。 ・命はなぜ大切だと思いますか。 ・あなたの命は誰のものだと思いますか。	・命は一つしかないものだから。 ・自分のもの ・家族のもの ・誰のものでもない	・事前アンケートの結果から、命についての問題意識をもてるようにする。
展開	2 教材「命のタスキ」を聞き、話し合う。		・短冊等を用い、教材の登場人物・条件・状況を確認する。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>資料：「命のタスキ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主人公の「智子」は、携帯電話の使い方や門限に対して母親をうるさく思っていた。 ・ある日、友だちのことを言われて「ほんとにうるさい。好きであなたの娘に産まれてきたわけじゃない」と思わず母親に言ってしまう。 ・保健の授業や母の生い立ちから生命のつながりを感じる主人公の「智子」。 </div> <div style="display: flex;"> <div style="flex: 1; padding-right: 10px;"> <p>(1)「好きであなたの娘に産まれてきたわけじゃない」と言った智子はどのような気持ちだったのだろうか。</p> </div> <div style="flex: 1; padding-right: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・いちいちうるさいな。お母さんには関係ない。自由にさせて。放っておいてよ。 ・友だちのことまで悪く言うなんて許さない。 ・カッとなって思わず言ってしまった。 ・心ないことを言ってしまった。母に見放されるのが怖い。 ・大事な娘を思ってくれている母を傷つけてしまった。 </div> <div style="flex: 1;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ロうるさい親に思わず反抗する主人公に共感させるとともに、気まずい関係になった主人公の後悔の念にもふれさせる。 ・自分一人でここまで大きくなった。自分の命は自分だけのもの。簡単に産まれてきたような言い方をしていることに気付かせる。 </div> </div> <div style="display: flex; margin-top: 10px;"> <div style="flex: 1; padding-right: 10px;"> <p>(2)命の重さと同じ重さの人形を抱いて、主人公の両腕がものすごく緊張したのはなぜだろうか。</p> </div> <div style="flex: 1; padding-right: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・母親が命がけで産んだ大切な命だから。 ・小さな命を落としてはいけないと大切に思う気持ちが芽 </div> <div style="flex: 1;"> <ul style="list-style-type: none"> ・母親が命がけで必死に産んでくれた命であること、それだけ命の重さは大きいのだということを考えさせる。 </div> </div>		

	<p>(3)本当の事実を知ったお母さんはどのような気持ちだったのだろうか。</p> <p>[補]自分がお母さんの立場だったらどうだろうか。</p> <p>(4)お母さんの話を聞いて智子はどのように感じただろうか。(お母さんに対して、どう思っただろうか。自分の命に対して、どんなことを考えただろうか。)</p>	<p>生えたから。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小さな命だが、ずっしりとした重みを感じたから。 ・お母さんも初めて抱いたとき、緊張したのだと実感できたから。 <ul style="list-style-type: none"> ・本当の事実を知ってショックだった。 ・自分が生まれた直後にいなくなってしまった母親を恨んだ。 ・本当の事実を隠していたおじいさんとおばあさんを恨んだ。 ・絶望して何もできなくなると思う。 <p><u>お母さんに対して</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・お母さんにひどいことを言ってしまったことを後悔した。 ・自分がお母さんの宝物だと分かった。 ・母の苦勞を知り、命を繋げてくれたことに感謝した。 <p><u>自分の命に対して</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・繋がっている命のタスキを大切にしようと実感した。 ・色々な人が繋げてきてくれたおかげで今の自分の命がある。 ・繋がってきた命の分だけ、自分の命の重みも大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本当の事実を知ったお母さんの怒りと悲しみ、絶望について考えさせる。それだけのことを乗り越えて、智子に命をつないでいることを実感させる。 ・想像することが難しく、言葉にすることも難しいお母さんの気持ちを考えさせる。 ・お母さんに対する申し訳ないという気持ちと産んでくれたこと、育ててくれたことに対する感謝の気持ちを考えさせる。 ・命は色々なことを乗り越え、生き抜くことで受け継がれてきた命であることを考えさせる。 <p>☆命の大切さについて、友達の見解を自分の考えと比較して聞きながら話し合い、命の大切さについて多様な視点から考えている。</p> <p>(話し合い・発言)</p>
--	--	--	---

	3 今までの自分を振り返ってワークシートに書く。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の命は大切だと思っていたが、父母、祖父母などがそれぞれつらいことも乗り越えて生き抜いて自分の番まで繋いでくれた命だということまでは考えたことがなかった。そうやって繋がってきた命を大切に生きていきたい。 ・痛い思い、苦しい思いをして大切に育ててくれた人がたくさんいるからこそ、今自分も生きている。今の自分の命をもっと大切にしていきたい。 	☆本時の学習を通して気付いた「命の大切さ」に関して、今までの自分を振り返り、思ったことや考えたことをワークシートに書いている。(ワークシート)
終末	4 教師の説話を聞き、ねらいとする道徳的価値を心にとどめる。		・ねらいとする道徳的価値を心の中で深められるように、余韻を残して終わるようにする。

5 他の教育活動等との連携

事前指導	生徒の命に対する考えを把握するためにアンケートを実施する。
道徳科	資料名「父へのメッセージ」 命は有限であり、その命を輝かせて生きることについて考える。
事後指導	道徳ノート「こころのおと」に授業に関連して気付いたことや考えたことを、具体的にしたことなどを書く。
他教科との関連	理科 植物の生活と種類

6 評価の視点

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- ・友達の発表を自分の意見と比べながら聞き、多様な視点から命の大切さを考えている。

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

- ・命が大切な理由や、今までの自分を振り返って考えたことを書く活動を通して、ねらいとする道徳的価値を自分と結びつけて考えている。

7 板書計画

